

「県政タウンミーティング」会議録

テーマ 『学校で知事と語ろう ～若者の声を県政に～』

日時 平成 25 年 2 月 8 日（金）午後 4 時 20 分から 6 時 20 分まで

場所 長野西高等学校

目次

1	知事あいさつ	1
2	意見交換	1
	（1）県立 4 年制大学について	1
	（2）高校教育について	5
	（3）女性の社会進出について	10
	（4）地方公務員の給与等について	11
	（5）自然エネルギーの普及について	12
	（6）市街地の道路整備について	14
	（7）観光インバウンドについて	15
	（8）県施設の空き室等の利用について	16
3	知事あいさつ	17

1 知事あいさつ

【長野県知事 阿部守一】

長野西高校の皆さんと一緒にタウンミーティングができるということで、楽しみにして来ました。

今日は、先ほど長野県の来年度予算案と今後5年間の長野県政運営の指針になる「長野県総合5か年計画(県政運営の基本となる総合計画、平成25年度から29年度までの5か年間を対象とする。)」の案を発表してきましたが、皆さんは学生だから教育の問題とか、地域をどうやって維持するかとか、どういう暮らしがあれば皆が満足できるのかなど、今日は、こらからの長野県を担う世代の皆さんの声を是非しっかり聞きたいと思って来ました。楽しい会には是非したいと思いますし、私は別にどんなことでも構わないから、率直に思ったことを言ってください。良い会にしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

2 意見交換

車座に座席を配置し、生徒の進行で、いくつかの意見交換テーマについて順次意見交換を行いました。なお、以下では司会の進行発言などは、省略します。

生徒は14名参加していますが、全て【生徒】と表記します。

(1) 県立4年制大学について

【生徒】

県内にもっと医療系の学科数を増やし、専門分野の養成課程を充実させるべきだと考えています。医療の高度化が進むにつれて、チーム医療というものが重要視されてきました。そんなチーム医療に欠かせないのが今話題になっている管理栄養士だけではなく、診療放射線技師や薬剤師です。こういった職業に就きたいと考える高校生も多く、私もその一人です。

しかし、現在長野県内にはこれらを専門的に学べる学部・学科がありません。そのために、例えば、新潟県の新潟大学などといった、県外の大学に進学し、そのまま県外の病院で就職してしまうケースも少なくありません。

加えて、長野県は日本一の長寿の県です。医療環境が整うことで、高齢者の方々もそうでない方も、近くの病院で高度な治療を受けることができるので、今よりももっと安心して生活をするようになります。

以上の点から、長野県は医療をトータルアシストできる人材を養成していくべきです。そのために診療放射線技師・薬剤師・管理栄養士の専門知識を身に付けることのできる学部・学科の設置は必要不可欠だと思います。

【生徒】

県立4年制大学について2つのことを提案したいと思います。

1つ目は、入試制度についてです。新県立大学構想の中に、既に、秋入学制度を取り入れるとありましたが、もう1つ取り入れていただきたいことがあります。それは他の国公立大学と入試日をずらすことです。この制度は、既に国際教養大学(秋田市に本部を置く単科大学)
<http://www.aiu.ac.jp/japanese/>が行っているのですが、とても画期的な制度だと思っております。入試日をずらすことで、より多くの学生が受験可能になり、より質の高い学生も集まるようになるはずです。

2つ目は、小学校で教育に従事しようとする方のためのカリキュラムを取り入れることです。新県立大学構想に、英語学習に力を入れるとありました。現在の日本の小学校の教育制度に代わり、英語の授業、全てを英語で教えることのできる小学校教員が求められるようになります。県立大学で培った英語能力を、小学校で発揮できるのは魅力的なことだと思います。信州大学との違いをはっきりとさせるために、新県立大学は専門性を高め、よりグローバルな視点を強調して、留学を義務付け、世界に目を向ける教育を推し進めていただきたいと思います。また駒ヶ根にある、青年海外協力隊の施設と協力し、世界的な活動にも参加できるといいと思っています。また将来、JICA（独立行政法人国際協力機構）や国連の職員も目指していけるような学びができると嬉しいです。

【生徒】

私は、県立の4年制大学について、大学で行われる授業を県民に開放してほしいということについてお話しをしたいと思います。

具体的には、県民に聴講したい大学の講義を募って、半年あるいは1年間などの期間、有料で選択した授業を聴講することができるというものです。我が長野西高校独自の科目として、第2外国語という時間があります。1年生から2年生までの間に、4つの外国語、ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語の中から、1つ選んで2年間学習するのですが、そこでは地域の方々も学ぶことができます。地域の方は特に熱心に学習をされていると聞いています。そして地域の人たちと一緒に学ぶことで、学生も地域の方々と交流することができて、学生もまた学問に対するモチベーションの向上が図れると思います。

【長野県知事 阿部守一】

県立4年制大学は、皆さんからいろいろなご意見をいただいています。今、私がいまははっきりしたことは言えない状況なので、申し訳ないと思います。

長野県には、いろいろな短大があって、信州大学とか私立大学があって、県立大学はそもそも無くていいんじゃないかっていう意見もあるわけです。しかし、県立大学は、これからの長野県を考えていったときにやっぱり必要です。皆さんは、国際教養科で海外とのコミュニケーションを一生懸命やりたいということで勉強していると伺いました。私も長野県を良くしていく上で、グローバルな視点は欠かせないと思っています。ただ、グローバルな視点で、海外でグローバルに活躍してもらうことも必要だけど、グローバルな視点でローカルに活躍してもらいたいというのが私の思いです。

知事として、去年は台湾とか中国へ行って、観光にどんどん来てくださいますとか、農産物をもっと買ってくださいますとか、子供の教育旅行や青少年交流をもっとやりましょうと要請してきました。長野県の産業を考えた時に、例えば、製造業はほとんど輸出関係です。中小企業が長野県には、多いけれども、中小企業の皆さんでも、もはや海外との関係抜きには仕事ができないという時代です。

それから観光は、長野県では、これからもっともっと振興していかなきゃいけないわけですがけれども、白馬や野沢温泉などに家族でスキーに行ったりすると、外国人ばかりですよ。だからローカルなことを考えて、ローカルな立ち位置で事業を展開していく上でも、やっぱりグローバルな視点がないといけません。これからどこの国へ発信すれば一番お客さんに来てもらえ

そうなのか、こういう物が売れる場所はどこなのか、そういう知識がなければ、長野県の中で活動しようと思ってもできない。そういうグローバルな視点でローカルに活躍できて、イノベーションを起こして新しいことをやっていけるような人材を育成していくことが、長野県においては不可欠だと思っています。既に、信州大学や私立大学もあるので、上手く連携して住み分けながらやっていかなければいけないと思いますが、そういう人材づくりがまだまだ足りないと、私は思っています。

日本では、何となく高校行って大学行って、高学歴だという感覚を持っているけど、世界標準からすれば、私は日本は今や低学歴社会だと思います。日本の学歴が本当の学歴じゃなくて、「学校歴」になっているところが問題だと思います。台湾に行った時に、台湾の高雄市でも台中市でも、県の部長は、ほとんど皆ドクターかマスターです。私は大学を出ても学士なだけで、修士課程もとってないですし、グローバルな視点が大事だとか偉そうなこと言っているけど、あんまりグローバルな教育は受けてないわけです。こんな状況で世界と戦っていけるわけがない。日本は資源がなくて、国際社会の中で活路を見いだしていくしかないと思いますけど、今までは、戦後の焼け野原から立ち上がって、人口が増えていく時代だったから、国内でそこそこ物が売れて、そのパワーで海外に対して足場を作って、経済大国として日本は発展してきました。けれども、これから日本の総人口は、どんどん減っていくわけです。日本の中だけで物を売ったり、人を喜ばせてお金を儲けようと思っても、確実に市場は縮小していきます。広くなっていくところは、今はアジアですよ。中国は少しピークになってくるとは思いますけども、インドなどアジア圏は人口も、まだまだ増えています。そうした地域の活力を取り込むことなしに、日本も長野県も発展していくことはあり得ないと思っています。そういう意味で新しい大学では、是非グローバルな視点でローカルに物事を考えて、地域の課題にイノベーションを起こしていくことができるような人材を作っていきたいなと思っています。

先ほどお話があった医療をトータルでアシストできる人材というのは大事な視点だと思いますが、そこは県立大学が本当にやらなければいけないことなのかは、よく考えていかなければいけないと思います。

また、入試の時期を変えた方がいいという話ですけど、そもそも大学入試の仕組みは今のままでいいのかなと思っています。これから大学受けようとする皆さんはどうなのかな。日本は一発勝負で終わり。英語の入試等、多様化してきてはいるけども、本当は単なるペーパーテストの成績だけじゃなくて、外国の大学院等のように、推薦状とか、日ごろの学校の成績とかで選抜して、画一化しないようにする必要はあるのかなと思います。特にアメリカは人種の問題とか多様な人が集まるように工夫しているけど、私は日本の大学ももっと多様化した方がいいと思うし、画一化した入学試験だけで評価するような仕組みは変えていった方がいいのではないかなと思います。

さっきも言いましたけど、日本は「学校歴」社会ですよ。どこの大学が良いとかそういう話は、私の感覚からすると、あんまりそんなことは関係ない。何を自分が学校で学んだか、そしてどれだけ世の中を良くしたいか、そういう貢献しようとかいうモチベーションを持っているか、そこが一番社会にとっては大事な話で、県立大学の話をしても、経済界の方を中心に皆さんそう言うわけです。大学で何の勉強をしたというような話ですとか、どこの大学出たなんて話しよりは、やっぱり前向きにやれる人材を育ててくれという話です。是非皆さんにはそういう視点を持っていていただきたいな

と思うし、新しい県立4年制大学は、ほかの県に負けない大学となるように頑張っていきたいと思います。具体的な話は、検討中なので控えめにさせていただきますけども、一般的な大学のあり方として、そういう方向性を県立4年制大学は目指していきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

逆に、皆さんに聞きたいのは、皆さん国際教養科でやっているじゃないですか。県立4年制大学をつくる検討に加わっていただいた国際教養大学の学長の中島さん(故中嶋嶺雄氏、平成25年2月14日没)もこれからは国際的なグローバルな視点が必要だと、それから個別具体的な専門教育よりはリベラル・アーツ(liberal arts 一般的には大学の教養科目をさす、近年は様々な解釈で用いられている。)だということをおっしゃられているのだけど、皆さんはどういうモチベーションでこの国際教養科に入ったの。将来こうしたいからとか、何が学べるからとか、どういう動機なんですか。

生徒たちの志望動機

- ・ 将来ドイツに行って、診療放射線とかの、そういう専門的なのを学ぶためにドイツ語を学びたかった。
- ・ なりたかった職業が、英語で必ず喋らなければいけないものだった。
- ・ 普通の英語科ではなくて、コミュニケーションとかプレゼンテーションとかに魅力を感じて、勉強したかった。
- ・ 英語がすごく嫌いで苦手だったが、ロシア語に触れたことから語学に興味を持った。英語やドイツ語も学べるので志望した。

【長野県知事 阿部守一】

国際教養学科っていうのは他の学校とその外国語の教育っていうのはどう違うの。時間数が多いのかな。

国際教養科の主な特徴

- ① 授業の3分の1以上(24単位から36単位)は専門科目。
総合英語、英語理解、英語表現、コンピュータ・LL演習、異文化理解、時事英語等
- ② 第2外国語が必修。(ドイツ・フランス・中国・韓国より1つ選択)
- ③ 海外からの留学生を積極的に受け入れる。
- ④ 海外で語学研修を実施。(1年3月に希望者)

↓

外国語教育の授業時間は、2週間に13時間から16時間(3年生)で、普通科より3時間から6時間多い。

【長野県知事 阿部守一】

私は大学の時の第2外国語は、中国語なんです。今ほど中国が発展してない時で、当時中国語を学ぼうなんていう人は、なんとなく漢字で書いてある

のは日本語に訳せそうだからという動機が多かったけどね。私もその一人ですけど。さっき言った中国とか台湾に行く機会が増えたんで、もっとまじめに勉強しとけば良かったなんて思っていますけど。だから若いうちに一生懸命やっという方がいと思います。

【生徒】

私の知り合いの方に、司法書士になりたい方がいまして、その方がこの北信に住んでいるのですが、この北信には法学系や経済経営系の学部がなく、また、それらで取得できる司法書士や税理士といった資格を取得できる機会があまりありません。今、海外や日本の仕事に就くに当たっても、個々が持っている資格というものがとても重要なものになってきていると思います。私も将来工学系に進もうと思っているのですが、それらに関わった技術や資格を取りたいと思っています。なので、県立4年制になるに当たって、資格を取得できる機会を増やしていただきたいと思っています。よろしくお願いします。

【長野県知事 阿部守一】

4年制大学についてアンケートをとったら、高校生とか大学生では、資格が大事だという人が多かった。私も資格も大事だと思うんだけど、世の中はそうは必ずしも思っていないです。そこら辺はギャップがあるんじゃないかなと思っています。もちろん資格が無いよりは有った方がいいと思うけれども、資格が有るだけでは、世の中はあまり通用しなくて、その資格をベースに何をしているか、そういうことが多分大事なんです。定型的な業務で人から指示を受けて、その資格が無ければできないという業務は、資格が有るだけでいいんだろうと思いますけれども、資格プラスその人のモチベーションっていうか、何かをやりたい意欲とか、あるいはネットワークとかですけど、そういうものが付加されないと、単に資格が有るだけでは社会のなかでは通用しないというのが私の感覚です。

さっきコミュニケーション能力の話がありましたけど、むしろ私はね、資格よりもね、コミュニケーション能力の方がすごく大事だと思っています。皆さんも、自分はこれだと、自分はこれにこだわるんだと。自分はこういうことで世の中に役立っていきたいというように、常に自分ではっきり持っておくと、人とコミュニケーションした時に、それはにじみ出てくると思うんです。そういうことを心掛けてもらいたいのかなというふうに思います。

長野県の大学をどういう学科にするかっていうのは、3つの視点で考えなきゃいけない。今日皆さんから聞いているその入口側。高校生が一体どういう大学へ行きたいのかっていうことが先ず1つ大事な要素。もう1つは出口側。社会が一体どんな人を求めているのかという話。それからもう1つの視点は、今、長野県の将来にとって何が必要なのか。この3つの共通項は一体どこなのかっていうところを出していかなきゃいけないなと思っています。

(2) 高校教育について

【生徒】

私は、長野県の長期休みについて提案をしたいと思っています。長野県は他の都道府県と比べて、長期休みが短い傾向にあります。他の県は、長野県より長期休みが長い分、休み中も補習をしているといわれますが、それは長野県

も一緒に、私たちも昨年夏休みのほぼ半分が補習で、その間も大量な課題やテスト勉強に追われて、オープンキャンパスも補習と重なっていていけないこともありました。そこで私は週5日制を見直すことで、長期休みを長くすることを提案します。現在ニュースなどでも話題になっていますが、1か月に1回や2回だけ、土曜日の午前に授業することで、その分、長期休みを長くすることはできないでしょうか。現在でも土曜日が授業になっている高校はたくさんあります。私たちもほぼ毎週土曜日は、午前や時には1日まるまる学校に来たりします。休みの長さを決めるのは、県内で統一することは難しいかも知れないですけど、長期休みが長くなれば、短い休みではできない短期留学やオープンキャンパス、大学調べなど集中することができると思います。

【生徒】

私は知事への意見として2つのことを挙げたいと思います。1つ目は、各学校に講演会などを開くのにふさわしい設備や、プレゼンテーション用の機材等を整備していただきたいということです。現在どの高校においても、総合学習の時間や進路指導の時間などに社会人講師の方をお招きして、講演会を行う機会が増えていると思います。ですが、講演会の内容をメモに取ろうと思っても、全員がきちんとした姿勢でメモを取れるような長机や椅子なども無いですし、体育館で姿勢を崩して書いている状況です。また、冬期は体育館での講演会は、暖房設備が有るとはいえ、とても寒いです。この学校も冬はすごく寒くて、体育館が寒いんです。それを理由にひざ掛けやマフラーなどの防寒具を使用している生徒もいるんですけど、私は話を聞くときの態度として、それはあまりいいものとは思いません。講演会などでは、人の話を正しい態度で聴くということも私は大事なことだと思います。私立高校はもちろん設備が整っていると思うんですけど、公立高校は設備の充実度に関して、各学校によって差があるのではないかと私は感じます。校舎を建て替えるとか、講義室を作るといのは予算的に難しいと思うんですけど、機材等ならばそれに比べれば支給することは十分可能だと思います。きちんとした設備でどの生徒も学習活動に意欲的に取り組めるように、検討をお願いしたいと思います。

もう1つは、北信や東信など地区ごとに高校の代表が集まって、理数科や国際科その他の特殊学科のみならず、普通科も含めた研究発表会を開催することです。他の高校生がどんな学習をしているかを学び、また私たち高校生も自分たちから外部へ発信するという経験ができるのではないかと思います。そして、その様子をビデオカメラ等で中継し、中学生にも見せることで、高校に対する興味、関心が湧き、特に中学3年生にとっては進路決定の参考にもなるのではないかと私は考えます。

【生徒】

ここ長野西高校国際教養科で毎年夏、新規に長野に来た外国語指導助手（ALT）の先生たちに、英語を使って善光寺の紹介をするというプログラムがあります。私たちの時はたくさんのネイティブの先生たちと気軽に会話することができ、自分も英語のみで海外の人たちと交流することに対して、すごく親近感を覚えることができました。そんなプログラムをもっと、長野西高校だけでなく市内県内にも広く企画してもらいたいと思います。さらに私たち高校生だけでなく、中学生や大学生も参加できるようになるともっと

いいと思います。

この企画によって、県内の観光地をアピールするための学生の活用と地域のコミュニティーの協力体制で、長野県に多くの海外からの観光客を呼び込んで、その地域の活性化にもつながり、さらにそこに参加する長野の学生たちの英語力とコミュニケーション能力の向上にもつながると思います。この提案について、どうお考えになりますか。

【長野県知事 阿部守一】

週5日制を見直すっていう意見は、県の職員が作った資料を見ると、国の動向を見ながら研究していくっていうことなんだけど。でもこれは、どうなの、さっき皆さん、話し合ったけど、実際に土曜とかは出てくることが多いんだね。

私は高校が東京だったし、まあ長野県の休みってなんでこんなに短いって、実は思っていたけど、なんでこんなに短いの。

【生徒】

昔は、稲刈り休みとか寒中休みもあったけれど、今はなくなってしまいました。

【長野県知事 阿部守一】

昔そういう休みがあったからっていう、今はないでしょ。それが消えているのになぜほかの休みが増えないのかな。

教育委員会の職員もここにいるけど、なんで短いのかな。それは一体誰が議論して、休みの日数を決めているの。何か基準があるの。学校で決めているの。他の県よりも長野県は休みが少ないって、皆さん言っているし、私もそう思っているんだけど、それは間違いがない。長野県は、冬も短くないかな。私は冬も短いと感じているんだけど。

教育委員会の説明

- 学校の授業日数については、長野県立高等学校管理規則で、校長が定めることになっている。
- 行事日を含めて授業日数を確保するためには、登校日は年間で 210 日ぐらい必要になる。
- その登校日を確保した上で、最終的には、夏休みをどのくらいにするか、学校長が決める。
- 北海道や東北の一部は、長野県と同じように夏休みが全国と比べて短い県がある。
- 長野県には、昔、寒中休業、稲刈りや田植え休みがあったが、そのため夏休みが短くなっていて、そのことが影響しているかもしれない。ただ、他県の場合は、3月の授業日数が多く、長野県は春休みが長いので、全体として休みの期間はそれほど変わらないと思われる。
- はっきりしないが、長野県には、全国と比べると、年間の授業日数が 10 日ぐらい長い学校もあるかもしれない。

【長野県知事 阿部守一】

10日長いと結構長いですよ。今度教育委員会の人に言おうかと思う。それってちゃんと議論した方が良くないのかな。議論して検討した結果そうなっているの。なんとなく昔からそうだったからそうなっているっていうことはあるのかな。問題意識は皆さんと共有するので、ちゃんと検討してはどうかと教育委員長とか教育長に今度言ってみるね。

それから講演会などを開く設備が不十分だというのは、高校の施設がよくないということかな。今日発表した予算案には、高校の修繕費のうち今まで積み残していたところを積んであります。

しかし、劇的には良くなるかも知れない。教育委員会が各学校をまわって調べて来て、ランク分けしているわけですよ。その一番優先度の高いところを3年間でなくそうという形で予算化しようと思うと、それで12億円とか13億円なんです。その優先度の高いランクというのは、屋根に穴が空いていて雨漏りしていますとか、老朽化していて外壁のブロックが落ちてきそうなので危険ですとかってそういうレベルの所だけでね。そこだけで10数億円という話になっちゃうから、皆さんが期待しているように快適に人の講演聴くというまでには、まだまだ届きません。

あんまり後ろ向きな話ばかりしてはいけないのかも知れないけど。例えば、どんな機材が必要で、建物はどんな改修をすればいいのか。どういうスペースがあれば、今より良くなるなって感じなのでしょうか。建物を改修・改築するお金は、多分出て来ないので、もう少し低コストで皆さんの希望に応えらるとしたら、どんなことをすればよいのかな。パソコンとかはどうなの。

【生徒】

パソコンは割といいです。でも、私たちのクラスはプレゼンテーションする機会がすごく多いです。この会場（会議室）にあるのもそうですが、スクリーンがあまり大きくないので、広い所でプレゼンテーションの発表をするとなると、一番後ろの席の人まで見えないっていうことはよく起きます。

あと、発表する時のマイクとかもスピーカーとかも、あんまりはっきり声が通らないこともあります。

また、会場は体育館で、床に直接座ったりしていて、本当にさっき話したように、ちょっともう皆思い思いの格好で聴いたり、うずくまったりとか、いろいろです。

【長野県知事 阿部守一】

なるほど体育館は寒いよね。ここの先生はどうすればいいのか。ここ近くのどこか、例えば信州大学の建物を借りてやるとか、そういうのはできないの。

学校の説明

- ・ 全校で移動するとなると、人数が多くなって困難である。
- ・ 1学年は約280人、3学年合計では約840人となる。

【長野県知事 阿部守一】

そうか。やっぱり本質的に施設を考えなきゃいけないのかな、分かりました。設備については、いい環境ではないので、できるだけ改善したいとは私も思っています。

逆に、高校の設備をもっと良くする場合に、この予算を切ればいいというのなかな。皆さんから見て、何かいらなさそうなものってある。

県の予算に何があるのか分かんないよね。教育、福祉、環境、農業、ものづくり産業の振興とか、道路作ったり、橋掛けたり、治山とか、河川整備とか、みんな必要なんだけどね。みんな必要だから、私は困っちゃうわけですよ。こうやって、要望された時、ごもっともだなと思うし、それくらい我慢しろよとは、私は思いません。でも、予算をどこから持って来るのかなってというのは、ここは増やす代わりに、ここ減らしてくれと、本当は県民が決めることです。私が考えるべき話でもあるんだけど、でも最終的には県民が判断していく話です。今度から皆さんもそういうの考えて、街を歩きながら、こんなことは無駄じゃないのとか、こんなこと、県でやらなくたっていいんじゃないのっていうことがあったら、教えてくれれば、そこを切って学校設備にまわしてとかね。

あと、ALT。ここの学校は2名いるんだね。それをもっと他の学校にも広めろということ。ALTって全部で何人くらい居るのかな。

外国語指導助手（ALT）の配置状況

- ・ 県下の高校に全員で43人
- ・ 長野西高等学校には2人常駐、ただし、週に1日は他校に行く。

【生徒】

数を増やすというよりは、ALTの人と接する機会が少ないことが問題です。交流の場を増やすことによって、英語に興味を持ったりとか。海外の方と気軽に触れ合えるということは、私たちの学科では毎年やったりしているんですけど、中学校等ではそういう機会は少ないから、交流の場を持って、加えて長野の観光地を紹介したりすれば、観光地の活性化にもつながるし、生徒のコミュニケーション能力の向上にもなるかなと思います。

【長野県知事 阿部守一】

授業をアシストするだけでは不十分だってそういうことだよ。もっとまろごと付き合えるような形でというのは、私も必要だと思います。ただ、ALTだけじゃなくて、地域の人たちに、もっといろいろな形で学校に参画してもらってはどうかと思います。海外体験が豊富な日本人もいるし、外国の人たちも地域に増えているから、是非、開かれた学校をつくってこういうことを考えているので、工夫して、学生と交流をする場をもっと多く作ればいいかもしれないです。

(3) 女性の社会進出について

【生徒】

現在、長野県でも大幅な人口の減少が起っています。これを少しでも解決方向に持っていくために、雇用形態の改善を考えていただきたいです。私はヨーロッパで取り入れられているクォーター制とパクォーター制の導入はどうかと考えました。クォーター制とは、あらかじめ企業の男女比を定めておき、職場での男女平等を図る制度です。つまり女性の進出が図れます。またパクォーター制とは、サラリーマンが育児休暇を取る間、100%給料を受け取れる制度です。つまり男性は安心して育児休暇を取り、女性と育児を分担できるのです。現在実力や実技があるのにもかかわらず、男女の不平等や育児の偏りで仕事に就けない女性が多くいます。平等な雇用形態にし、男性が女性をサポートできる環境を形成するべきだと思います。

東京都などでは、既に行われていますが、子供が急に病気になった時や学校終了後の放課後や週末等に預かって面倒をみってくれる場所、仕事がある親が登録して利用ができるような環境も必要だと思います。長寿県である長野県には、退職しても元気な高齢者が多くいます。だから私は、その人たちにそのような面倒をみってくれる環境を作ってもらっていくのはどうかと考えました。こうすれば高齢者の方も生き生きと仕事ができ、自身の喜びにもつながるのではないのでしょうか。

知事は雇用形態の不平等や労働者の負担を軽減できる環境について、どうお考えですか。

【長野県知事 阿部守一】

働き方の話は、一番大事なテーマだと思っていたので、これから議会の承認を得なければならないけど、新たな総合5か年計画のなかでも、今、お話していただいた働き方の研究をしていこうと。そして女性がもっと活躍できる長野県にしていこうということで、プロジェクトを組んで進めていこうと思っています。今もお話しにありましたけど、長野県はこれから20年間で30万人減るという予測を立てているんですけどね。20年間で30万人といえば、大きな市が1個なくなっちゃうよという感覚だから、相当な状況です。ただ、さっきお話しあったように、長野県の良いところとしては、年をとっても働いていること、高齢者の就業率が日本で一番高いということが挙げられます。だから、お年寄りにも働きたい人はもっと働いてもらう場、女性にもまだまだ活躍してもらう場がもっといっぱいあると思っています。それから障害者、長野県の企業には、まだ障害者の法定雇用率に届かない会社もあるので、私も雇ってくださいと働きかけています。障害者っていうとレッテルを貼っちゃう形になるけれども、いろいろな障害があるし、障害があってもすごい能力を持っている人たちがいるわけです。昨年秋のアビリンピックを見ても、障害のある選手たちがやっているようなことは、私にはとてもできないし、障害があっても根気強く真面目に一つのことに取り組む人たちがたくさんいます。そういう人達をもっと働ける、もっと活躍できる社会にしていきたいなと思っています。

また、女性の社会参画は、一番重要な話でもあるし、そのために子育て環境をしっかりと整えていくこととセットで進めていかなければいけないことです。

今の提案は、しっかり受け止めたいので、是非一緒に進めるように協力し

てください。

(4) 地方公務員の給与等について

【生徒】

1つ質問してもいいですか。今、話題になっている公務員の給料や退職金についてなんですけど。私たちのクラスには、将来、公務員として国のために働きたいという人が多くいます。給料や退職金を削ってしまえば、将来公務員を希望する人が減っちゃうと思うんですけども、長野県では今後どのようになっていくのか教えてください。

【長野県知事 阿部守一】

県の職員組合とシビアな交渉中なので詳細は言えないですが、今は地方公務員の給与はどのようにして決めることになっているかといったら、地方公務員法によって、国とか民間の人たちの給与とか生計費とかを考慮して、地方公務員の給与の水準を決めなさいっていうことになっているよね。

今までの基本的なやり方は、国家公務員に準じて決めるのが一番でした。国家公務員の給与自体が、人事院勧告で決めてきたわけなので、国家公務員の給与は民間の給与水準をその時の経済情勢を盛り込んで決めていくという前提の中で、地方自治法の主旨を体現する一番手っ取り早い方法として、国家公務員に準じた形で地方公務員の給与を決めるのが良いことだとされていきました。今回、新聞に時々出てくるけども、国は災害対応で、国家公務員の給与を24年度と25年度の2か年間、7.8%カットをやっていきます。25年度の予算で国は、国がこれだけ切っているんだから、地方も同じように給与を削減してよということ、閣議決定までして要請されているのが、今の我々の立場です。

これはいろいろな見方があるけれども、私は地方自治の観点から言えばとんでもない話だと思っています。私は長野県の知事だけでも、別に中央政府の支店長をやっているつもりは全くない。本店支店関係はね、本店が「右向け右」と言えば、それは社長の言うことは聞きましょうという話だけど、日本国憲法には、地方自治が規定されていますよね。憲法は勉強したと思うけど、国が右向けと言えれば右向くのが地方自治だとは全然思わないので、今回のやり方は、非常に良くない。地方自治の観点からして、私はよくないと思っています。しかし、国はお金を持っていて、現実に地方交付税とか切ってきていますからね。切ってきて、じゃあ地方はどうやり繰りするかという時に、さっきいったように、県がやっていることはみんな大事で、皆さんがこれ止めろと言ってくれば、止めるけれども、そうじゃないなかで、お金をどう捻出するかって考えると、国から言われたからやるっていうことじゃなくてね、地方公務員、地方自治体としてこの給与をどうするかっていうのは、真剣に考えていかなければいけないっていうのが、今の状況です。

これはこれで当面の課題ですけど、むしろもっと中長期的に考えれば、さっきいったように、本店支店の関係でもないのに、国に準じて給与を決めるなんていうこと自体が、破たんしていると思っていますので、そもそもその仕組み自体を変えていかなきゃいけない。変えた時に、場合によっては国家公務員に準じた方が、給与が高い人とか、地域があるかも知れない。地域によっては税収が少ないから、もっと地方公務員の給与を下げようという所もあるかも知れないし、逆に、うちはいっぱい企業もあるし、税収も潤沢だか

らもっと上げてもいいんじゃないかっていうところもあるかも知れないけど、それが本来の地方自治のあるべき姿と思っています。最終的に決めるのは皆さんの代表の、県議会が条例で給与を決めるわけですから、国家公務員に準じるというルールをなくして、最後は県民が決めるんだという仕組みの方が、私は良いと思っています。最終的には県民の意思で、県職員の給与が決まっていく仕組みに、私はしていくべきだと思うので、さっき言った、地方公務員のあり方も含めて、考え直していかなきゃいけないなと思います。

今、公務員の給与をどう見ているかっていうことを付け加えれば、働いている公務員、一生懸命やっている人達の給与は、民間と比べて別に高過ぎる水準でもないんじゃないかなと思います。ただ、公務員には、いろいろな職種があって、民間企業と同じような働きをしながら、民間の人たちの水準よりもかなり上回っている職種もあるので、公務員対民間という比較を我々日本人は当たり前のようにしてきたけど、そこは変えて、同じような仕事をやっていけば、民間だろうが公務員だろうが、同じような給与にしていくという方向が、私は社会として望ましいんじゃないかなと思っています。

長くなり過ぎますけども、何でこんなこと言うかということ、例えば、長野県でIT改革をばんばんやっとうと考へた時に、民間の人を採用しようとしても、恐らくIT企業でばんばんやっている第一線の人が、長野県に来た時には、給与が大幅に下がっちゃうんですね。だけど、あなたは特別だから普通の人の10倍出す、なんてことは今の公務員法上はできないので、本当に未来志向で考へた時には、もう少しそこら辺を柔軟にしていかないと、いい人材が確保できないです。公務員としてもいろいろな職場があって、その中でも民間と競争してやっっていかなければいけない職場に、いい人材を集めるには、今の給与のあり方では、私は不十分だと思っています。

(5) 自然エネルギーの普及について

【生徒】

既に長野県で始まっている1村1自然エネルギープロジェクトのような自然エネルギー政策に関して、お話ししたいと思います。ヨーロッパ中部では、地域で使うエネルギーを100パーセント地元産の再生可能なエネルギーにするという、エネルギー流通が、1990年代から広まっています。自立に成功した地域の多くは、自然が豊かであったり、面積に対し人口が少ないため、元々必要なエネルギー量が多くなかったり、エネルギー自立しやすい条件が整っています。そのため、住民や自治体が投資した分のエネルギーの見返りがあるので、地域経済が活性化したと考えることができます。

しかし、「自然エネルギーは環境に優しい」という形容詞だけで住民を説得し、いろいろな地域のエネルギー自立を図るのはとても危険だと思います。そういうやり方は、3.11前の原発の導入と同じやり方になってしまいます。

長野県内の郡、市町村あるいは世帯単位で、エネルギー自立を図ろうとする際には、その土地のエネルギー自立地域としてのポテンシャル調査、例えば日射量や日照時間などを調べて、太陽光発電の投資に対して得られるエネルギー量は割に合うか、というような調査が必要になります。しかし調査をどこに依頼するのか、また発電機の設置のため住民を説得するための人材を、どうするのかといったことを各地域が考へなくてはなりません。そして、発電機そのものの発電効率をあげる必要があります。

したがって、投資に対するエネルギー量を調べるといったポテンシャル調査、エネルギー自立を促すための環境づくりや教育活動を、県に積極的に行っていたきたいです。これに関して阿部知事のご意見をお聞かせください。

【長野県知事 阿部守一】

自然エネルギーの普及拡大は、去年を自然エネルギー元年という位置付けにして、長野県は積極的に拡大しようということで取り組んでいます。私はエネルギーの問題はどう消費するか、どう作るかという話の問題だけではないと思っていて、地域がどうすれば自立できるかということとセットの話だと思っています。長野県は日照時間も比較的長い地域が多いし、太陽光・太陽熱の利用適地が非常に多いわけです。

加えてバイオマス資源、森林資源、県の8割が森林ということがあって、本当は薪ストーブ、ペレットストーブ、もっと普及させなければいけないと思っているけれども、まだまだ使えるエネルギーはあるし。加えて、大規模ダムでの発電じゃなくて、小水力発電も長野県は適地が非常に多い。長野県は水が豊富でそして地形が急峻です。水は水だけでエネルギーを持っているわけじゃなくて、坂があるから、位置エネルギーでエネルギーを持っているわけで、長野県は水も豊富で坂が多いので、小水力発電にとっては非常に有利な場所です。

現在、ほとんどのエネルギーは外から持ってきているわけですよ、石油だったり石炭だったり、県外どころか海外のエネルギー源・燃料に依存しているわけですから、そういう意味で、太陽光、バイオマス、小水力、地熱等、いろいろなエネルギーを使うことによって、できるだけ地域にあるものは地域で活用していくという視点で取り組むことが、地域経済の自立にもつながります。また、あんまりそういうことは起きてほしくないけれども、安全保障を考えた時に、石油ガソリンの価格ってというのは、中東の方に紛争が起きれば、すぐ上がったり下がったりする状況ですから、そういう意味での安定性ということを考えても、私は自然エネルギーの普及拡大をしっかりとしたいかなきゃいけないと思っています。

今、1村1自然エネルギー運動とか、自然エネルギー信州ネットを作って、県だけじゃなくて、それぞれの地域の皆さん、NPO、企業、大学等と連携して、地域の資源をできるだけ発掘して、自然エネルギーの実用化に取り組もうということを進めてきています。場合によれば、高校生にも参加してもらってもいいかもしれないです。地域それぞれ発展をしていくのが、私は自然エネルギーの良さだと思っています。

今のエネルギー体系ってというのは、例えば、ガソリンの流通にしても、中東からタンカーで運んできて、そこから地域に分配しているし、電力も巨大な電力会社が、今回原発事故を起こして発送電分離だとかいろいろな議論されているけれども、ある意味独占企業だね。巨大な独占企業が、電力供給を一手に担っているという仕組みがずっと続いています。さっきの給与の話と同じだけど、地方自治とか地方分権ってというのは、それが目的じゃなくて、自分たち身近なことは自分たちで主権を持ってしまうよって、各自がコントロールするのが民主主義だし、地方に分権していくことが、私は、民主主義の基本だと思ってるんですよ。私は、エネルギーの話も同じだと思っていて、3.11の前は、だいたいの方は、意識しないでスイッチひねれば電気が来るのが当たり前だと思っていたんだけど、原発立地地域の皆さんのいろいろな悩みとか負担の下に成り立っていたんだとかね。あるいは国際間の紛

争の地域の中で、石油とか石炭とか、エネルギー源が確保されているんだということを考えた時には、やっぱり私は、本来エネルギーも地産地消的に、自分の所の身近な所で確保できれば、自分たちでコントロールできるし。問題が起きてもすぐ自分たちの力で直すことができるので、本当は暮らしの安定・安全ということを考えれば、エネルギーも分散型にしていく必要があると思っています。そういう意味で自然エネルギーの適地である長野県は、もっともこの自然エネルギーを活用する方向で進んでいかなければいけないと思っています。

長野県には、例えば天竜川水系とか木曾川水系とか、いっぱいダムがあるけど、電気は結局、東京とか大阪とかにほとんど出て行っちゃっているわけで。エネルギー供給をしているけれども、あんまり地域の中では使われていないところがあります。今回、長野県の企業局でダムを持って、発電事業に取り組んでいます。新しい電気事業を県としても増やしていこうと思っています。その取り組みを一步一步進めながら、エネルギーが極力身近な所で賄っていけるような地域にしていきたいと思っていますので、是非一緒に協力してください。

(6) 市街地の道路整備について

【生徒】

私は交通環境整備について、意見を述べさせていただきます。現状を申し上げますと、現在の道路は車中心のものであり、交通量が多い所に歩道がなかったり、道幅が狭かったりして、いつ事故が起きてもおかしくない状況下にあります。さらに、雪の多い長野県だからこそ道路の雪対策を実施していただきたいと思います。東京等の都市部では、雪に慣れていないせいで交通網に様々な影響が出ているということをよくニュースで聞きますが、長野県でも雪に慣れているからといって道路や横断歩道に氷が張っていたのでは、その危険は都市部とさほど変わらないのではないのでしょうか。私は一度自分の乗った車が雪でスリップするということを体験して、その恐ろしさを思い知らされました。また、氷の張った道を自転車で通行する人や、横断歩道の真ん中で転びそうになっている人も見かけますが、それも危険極まりないことだと私は思います。

今、世界が直面している環境問題のことを考慮に入れますと、車よりも徒歩やあるいは自転車の利用を推進していく必要がありますが、そのためにもこれらの対策、またコミュニティー道路の整備や、自転車に速度制限を設けるなど、歩行者や自転車利用者が安全に暮らせる街づくりが大切だと私は思っています。知事はこのような交通安全対策について、どのような意見をお持ちでしょうか。

【長野県知事 阿部守一】

私は、今の意見にまったく同感です。同感なので、何かやらなきゃいけないなと思って、お話しを伺ったんですけども、現状がどうかということ考えた時に、縦割り行政ですよ。例えば、街づくり。皆さんの身近な生活道路はほとんど市町村の事務です。ここだったら長野市が管理していますから、長野市がどう考えるかだけど、交通規制の話は警察になるんで、これは県警の話だということになります。もっとメインの道路になれば、これは県の建設事務所です。それぞれが縦割りの中でできることをやっているように

なっているんで、今のお話のように、ハードだけじゃなくてソフトの視点も入れてやっていく必要があると思いますが、その視点は確かに弱いと思っています。

私も県庁から歩いて5分くらいの所に住んでいますが、冬は時々転びそうになります。歩道の切り方とかは、もうちょっと何とかしてくれないかなど。斜めになっていると、雪がない時は全然いいけど、凍っている時は、この角度では危ないなっていうところもあるので、全体的に考えていかなきゃいけないと思います。

道路について、日本の考え方っていうのは、人も車も自転車も一緒に通る所が道路だっていう感覚だけど、私は、本当は街の中は人間だけが歩く道路とか、分離していくことも考えなきゃいけないと思います。現状は人間よりも車優先で、例えば、駅前に横断歩道をつくれれば良いのに、地下道になっているとかね。車は便利だけど、歩く人間にとっては不便な町というのは、結構あると思っていて、視点を変えていかなきゃいけないと思います。

ただそれは、ハードを作る者だけで考えても、作ったり維持したりするところに一生懸命になっているので、一生懸命やっているけれども、利用する時に不便かどうかという視点は、弱くなってしまいます。例えば、福祉の街づくりだったら、実際に障害者に見てもらって、どこが都合悪いんですかとか、あるいはお年寄りから、歩いていてどこがまずいのかを聞き出すなかで、改善していくということをやっていないといけないのです。そのように暮らしている人たちとコミュニケーションをするなかで公共事業のあり方というか、街づくりのあり方っていうものを当たり前の形にしていかなきゃいけないのかなと思って、話を伺いました。そこは私にとっては宿題にさせていただきたいと思います。

(7) 観光インバウンドについて

【生徒】

私は、観光地出身ですが、長野県と言えば温泉地やスキー場といった観光地が多くありますよね。ですがそこはスキー場というだけあって、山というイメージがあって、ちょっと行きづらいな、というイメージが県内外にもあると思うんですよ。それが原因で観光客の方々の足が遠のいてしまっていることを私はもったいないことだと思っています。東京でも「アルクマ」のポスターを見たりして、長野県いいなと思ってもらえたりしているんだと思うんですが、そういった交通のイメージで足が遠のいてしまっているのはすごくもったいないことだと思っています。

そこで、新しい道路をつくることや、公共交通機関である電車、バス、飛行機の本数や時間を見直すことで改善できるのではないかと考えているのですが、知事はどうお考えでしょうか。

【長野県知事 阿部守一】

そうだね。交通網の整備はしっかりやらなきゃいけないと思っています。例えば、北陸新幹線は、2年経ったら金沢まで行きますし、そこから先の大阪にまで繋げてもらえれば、もっと長野県にとっては良いことだと思って活動しています。それからリニア新幹線は、環境にマイナスの影響を及ぼさないようにしてもらわなきゃいけないけども、飯田周辺に東京から40分くらいで来られちゃうっていうのは、これは画期的だと思っています。

常に交通網の整備はしっかりやってかなきゃいけないと思っていますが、私は、時間が短くなったから来るけど、時間が遠かったら来ない所は、多分本当の地域の魅力がないんじゃないかと思っています。不便だって良い所なら来ると思うんですよね。我々は、海外旅行なら、空港に着いて、そこから電車乗ったりバス乗ったり平気で2時間も3時間もかけて行きますよね。どうしても行きたい魅力がある所だったら、交通の便が多少不便でも私は人が来るんだろうと思っているので、交通基盤の整備は大事だけれども、交通基盤の整備だけがすべてではないんじゃないかなと思っています。

むしろ、やらなきゃいけないことは、地域の魅力をどう高めるか、どう価値を高めるか。それからどう効果的な発信をして、いろいろな人に知ってもらうかっていうことが大事だと思っています。ただ、長野県の観光地の発信は弱いと思っています。弱いというのは、長野県の観光地は個々の観光地のイメージが強くて、軽井沢は軽井沢、木曾は木曾、志賀高原は志賀高原、白馬は白馬で、みんなそれぞれ発信力があります。国内だったらそれでいいんだけど、例えば、中国の感覚からすれば、長野県のように狭い所で、ここにはこれがあります、こちらはこんな所ですっていう発信をしていたら、中国の人たちに伝わるわけがないと私は思っていて、長野県全体のもっと総合的な発信をしていくということが、世界を相手にするという視点に立った時には実は重要なのかなと思っています。

交通の話も大事で、例えば海外を相手に考える時には、松本空港をどこまで利用するか。今は、国際チャーター便を飛ばしていますが、実績を積み上げて、国際定期便が入れるような空港にしていければ、だいぶ変わってくるだろうと思います。それから東京とか名古屋経由で入ってくる外国からの観光客の利便性についても、日本人は電車で移動して新幹線乗っても、そんなに苦にはなんないかも知れないけど、海外からの人はでかい荷物持って、空港に着いて、駅まで行って、また駅から電車乗って又乗り換えるなんていうのは、我々が海外行ってもやらないので、空港からもう直接信州へバスで来ることができるようにするとかね、そういう面での工夫はもっともってしていく必要があるなと思っています。今度東京のホテルから中国人観光客向けに、88円でホテルから長野県への直行バスを走らせようと思っているのですが、県が補助金出せば変わる仕組みでは長続きしないので、そういう仕組みが上手く回るように考えていきたいなと思います。

(8) 県施設の空き室等の利用について

【生徒】

要望がありまして、県庁もしくは出先機関で使われていない空き部屋を借りることはできないかということです。私は現在演劇班に所属してまして、発表や大会が近い時は、授業日だけでなく土曜日や日曜日や、学校が使えない日の練習も必要になってきます。しかし、練習できるような施設や場所は少なく、練習したくてもできないということが多くあります。この問題は私たちだけでなく、ほかの学生また一般の方も感じることはないでしょうか。また場所の提供をしていただくことで、県内で活動している団体そして県民全体の活性化にもつながるのではないのでしょうか。もちろん使われてないすべての部屋を貸していただきたいというのは、無理があるということはお分かっています。その空きスペースの有効活用についてご検討よろしくお願いたします。

要望の趣旨

- ・ 学校の部活動（演劇）の練習で使用できる場所を探しているが、日曜日には、通信科が使っているので利用できない。
- ・ 現在、必要なときは、有料で場所を借りている。

【長野県知事 阿部守一】

なるほど。それは一般の人にもそういう話をされたことあるし。県立高校生だったら最優先で良いような気がするけどね。ちょっと考えていかなきゃ。なんか使ってもいいような気が私はしているけど。

話の視点がずれちゃうかも知れないけど、3.11の後、県民の皆さんが何とか被災地を応援したいとかね、被災地の人たちを何とか応援してほしいという話があって、たくさんの義援金が届きました。ほかに物資もたくさん届きましたが、善意は大変ありがたいのだけれど、カップラーメンだとかペットボトルとかバラで1本とか持ってこられても、運んだり仕分けたりするのが大変で、途中でお断りせざるを得なくなってしまうたけれど、県民の皆さんの想いを、なんとか被災地の皆さんと繋げなきゃいけないなということで、東日本大震災支援県民本部っていうのを立ち上げたんです。そこで、子供たちのサマーキャンプの受入れとか、避難してくる人達の対応とかやったんですけども、その時のやり方は、やれる人がやれることをやりましょうっていうことにして、運営資金は経済団体の人に出してもらったんですよ。そこにいて相談とか乗る人は、NPOとか社会福祉協議会の人たちで、県は場所を使ってもらったんですよ。県は財政が厳しいから部屋を貸すから勘弁してねっていうことでやったんですけど、そうやって県のスペースを使ってもらったことがあります。

誰でも彼でもっていうのは難しいかも知れないけど、例えば、文化政策を、県としてしっかり応援しますというなかで、高校生の教育活動の一環ですっていう、なにか一定の仕組みがあれば、全くできないわけではないなという感じはするので、検討して返事をするようにします。

3 知事あいさつ

【長野県知事 阿部守一】

どうも皆さんありがとうございました。良い意見がいっぱい出て、私もすごく刺激になりました。何でこうやって皆さんと話をしたり、タウンミーティングをやったりするのかといえば、私も、もちろん仕事は一生懸命やっているんですが、仕事を一生懸命やればやるほど、段々縦割りになったり、普通の感覚とずれてきてしまうんですよ。

例えば、国の制度の仕組みはこうなっていますとか、補助金の使い方はこうでなければいけないとかっていうのを、毎日のように聞いていると、この補助金はこういうものだっていうのが私の中にも自然に刷り込まれてきてしまいます。でも別に補助金のための仕事をやっているんじゃないくて、県民の皆さんのための仕事をやっているんで。さっきの建物のこともそうだし、

「でも知事、そうは言ったって、もうちょっと、こういうとこまでやってくれませんか。」って言われることが私にとってはすごく良い刺激になっています。今日も皆さんからいっぱいいろいろな良い刺激を与えてもらったので、大変感謝しています。ありがとうございました。